

日常生活における火災や事故を防止しよう

子供の火遊びを防止しよう

平成24年から平成28年（稲城市、島しょ地区を除く地域）の5年間で、東京消防庁管内では、12歳以下の子供の火遊びに起因する火災が177件発生しました（図1）。

また、火遊びによる火災で2人の子供が亡くなっています。痛ましい事故が起きないように、子供の火遊びを事前に防止しましょう。



1 過去5年間の発生状況

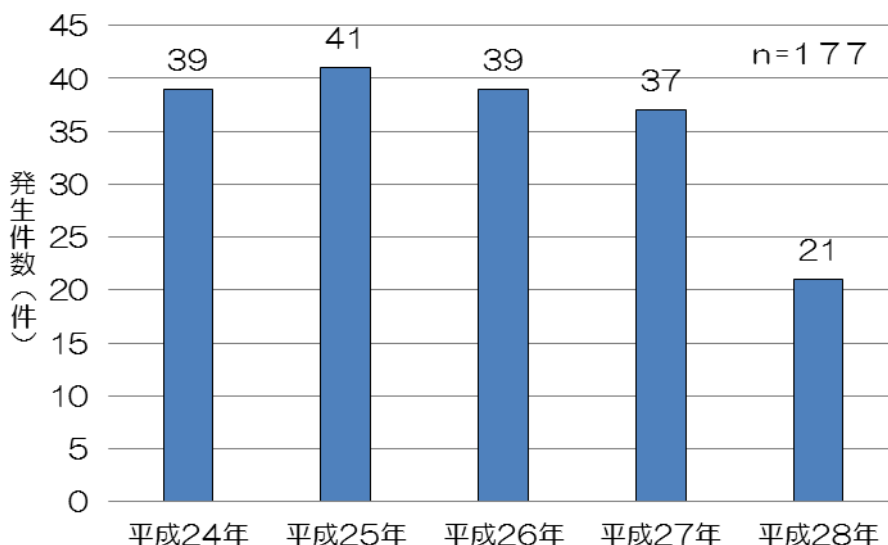


図1 過去5年間の発生件数

2 年齢別・男女別の発生状況

行為者を年齢別にみると、12歳が42件と最も多く発生しています（図2）。また、177件のうち行為者が男児であった火災件数は161件、女児が16件で性別では男児が大部分を占めています。

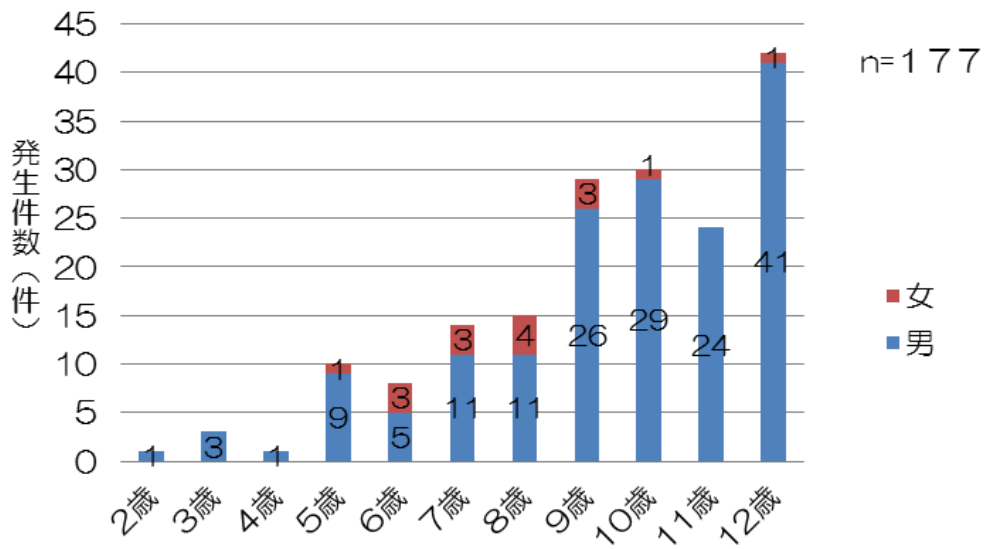


図2 年齢・男女別の発生件数

3 どこで火遊びをしているのか

出火場所は、屋外が最も多く97件、次いで自宅が46件となっています（図3）。また、屋外では、公園、河川敷などで発生しており、自宅では居室内、台所やベランダなど様々な場所で発生しています。

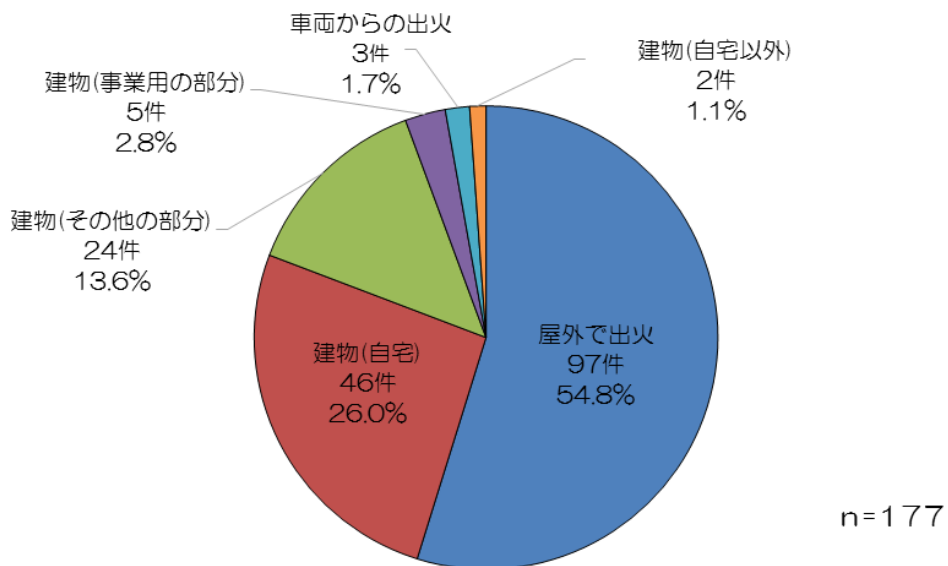


図3 出火場所別火災発生件数

4 1日の中で発生の多い時間帯

就学年齢にあたる6歳以上の子供の火遊びによる火災は、13時から17時台に多く発生しています（図4）。また、5歳以下では、13時台に多く発生しています。

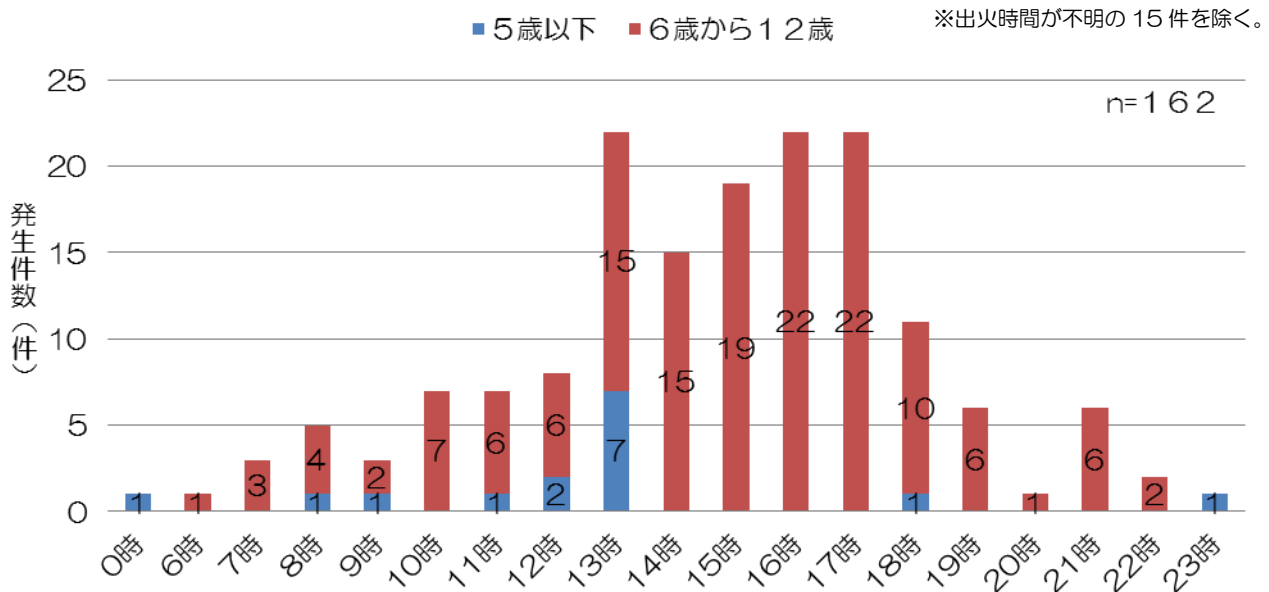


図4 発生時間帯ごとの火災発生件数

5 火遊びに使用したもの

火遊びに使用したもので、最も多いのはライターの84件で全体の半数近くを占めています（図5）。また、マッチによる火遊びもライターに次いで多くなっています。マッチはライターのようにスイッチから指を離せば消えるものではありませんので、自分で消すことができない子供もいます。

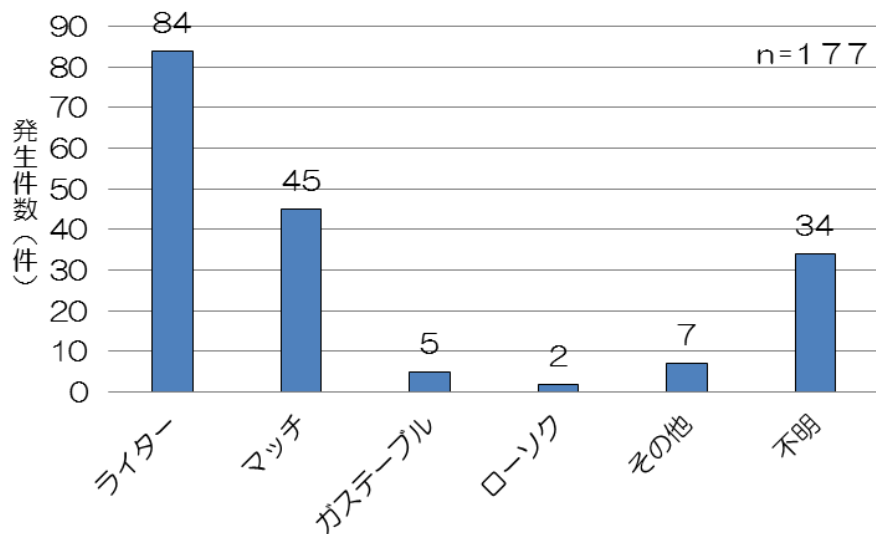
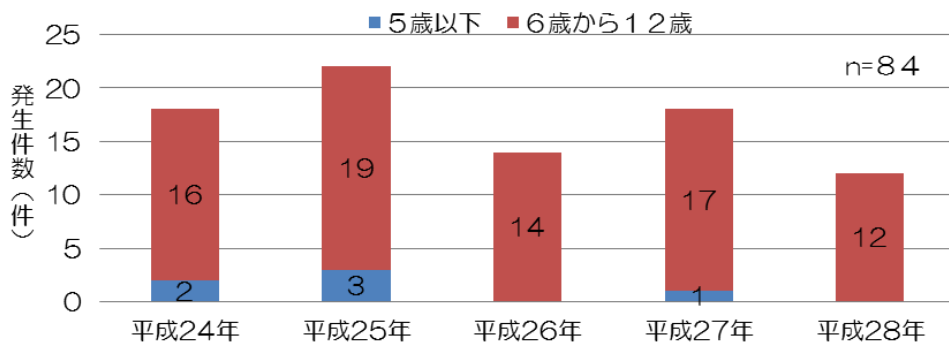


図5 発火源別の火災発生件数

6 ライターが発火源となった火災件数

ライターが発火源となった件数は、6歳から12歳が全体の93%を占めています（図6）。CRライターの規制が導入され、5歳以下の火災発生件数は大きく減少しました。



平成25年中（5歳以下）3件のうち2件は、CR機能のないライターが発火源となっています。（1件は不明）
平成24年中の2件、平成27年中の1件は不明

図6 ライターが発火源となった火災発生件数

7 子供の火遊び火災による死者

子供の火遊びに起因する火災のうち、死者が発生した火災は、過去5年間で1件発生し、5歳と2歳の子供が死亡しています（表1）。

表1 死者が発生した火遊びに起因する火災

| 発生年 | 出火場所 | 年齢 (行為者) | 性別 (行為者) | 発火源 | 死者数 |
|-------|---------|-------------|-------------|------|-----|
| 平成24年 | 自宅 | 5歳 | 女 | ライター | 2人 |
| 平成25年 | 死者の発生なし | | | | |
| 平成26年 | 死者の発生なし | | | | |
| 平成27年 | 死者の発生なし | | | | |
| 平成28年 | 死者の発生なし | | | | |

火遊び火災の事例

「ライターの火遊びにより42平方メートルが焼損した火災」

この火災は、共同住宅の9階居室内から出火したものです。

11時頃から2人の子供とその母親が寝室で寝ていました。母親が目覚めるとベッド脇のマッサージチェア付近から火が立ち上がっており、2歳の息子がベッド脇に立っていました。

出火原因は、母親が寝ている間に2歳の子供がベランダの室外機の上に置いてあったロングノズル式ライターを使用して火遊びし、寝室のマッサージチェアにかけていたシーツに着火したため出火したものです。負傷者は発生していません。

「マッチの火遊びにより30平方メートルが焼損した火災」

この火災は、共同住宅の1階ダイニングキッチンから出火したものです。

出火時は小学生が一人で留守番をしていました。

出火原因は、子供が下校途中に持ったマッチ箱を家に持ち帰りマッチに火をつけたところ、消し方が分からず、ごみ箱に捨てたためごみくずに着火し出火したものです。

負傷者は1名で子供が手に火傷を負いました。

火遊び火災を防ぐために

- ◆ライター等は、子供の目に触れない場所、かつ手の届かない場所で厳重に管理する。
- ◆子供には幼児期から火災の怖さや火遊びの危険性を教える。
- ◆幼い子供だけを残して外出しない。
- ◆子供の安全を守るため、子供が簡単に操作できないチャイルド・レジスタンス・ライター（CRライター）を使用する。
- ◆ライターを廃棄する際は、中のガスを使い切ってから、各自治体が定める分別方法に従い廃棄する。
- ◆小学生になると、公園など屋外で火遊びをする子供が増えることから、保護者、学校、地域が連携して、子供の火遊び火災を防ぐ。

ライターの規制導入について

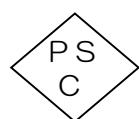
ライターの規制導入について

消費生活用製品安全法施行令の一部が改正され、規制対象製品にライターが追加されました。（平成22年11月10日交付）

平成22年12月27日に施行され、施行後9ヶ月間の経過措置を経て平成23年の9月27日からCR（チャイルド・レジスタンス）機能を施した安全対策済みライターなどが市場で販売されています。販売できるライターは、以下の3つの要件を備えたものです。

- 1 ライターの基本性能の要件を定めたJIS規格を採用したもの
- 2 子供が簡単に操作できないCR機能を備えたもの
- 3 子供が興味を持ちやすい玩具（ノベルティー）型でないもの

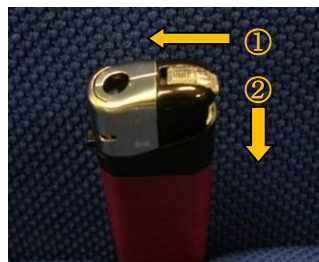
なお、規制対象になることにより、製造または輸入事業に係る国への届出、技術基準適合義務、PSCマークの表示が義務付けられます。



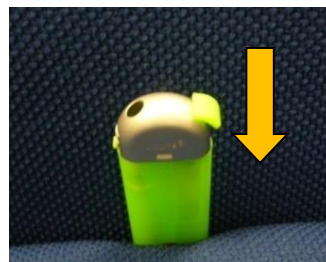
PSC…Product Safety Consumer
(製品) (安全) (消費者)

※ 規制の対象外となるライターもあります（例：燃料タンクが金属製のもの）。

主なCRライター



2動作以上を同時に操作するタイプ

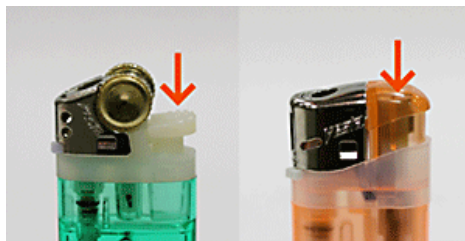


レバー操作に強い力を必要とするタイプ

ディスポーザブルライターのガスの抜き方

ディスポーザブルライターのガスの抜き方

- 周囲に火の気のないことを確認する。
- 操作レバーを押し下げる。着火した場合はすぐに吹き消す。
- 輪ゴムや粘着力の強いテープで、押し下げたままのレバーを固定する。
- ※ 「シュー」という音が聞こえれば、ガスが噴出している（聞こえない場合は炎調整レバーをプラス方向にいっぱい動かす）。
- この状態のまま付近に火の気の無い、風通しのよい屋外に半日から1日放置する。
- 念のために着火操作をして、火が着かなければ、ガス抜きは完了です。



花火による火災を防止しよう

1 花火の使用方法を守ろう。

夏の風物詩のひとつとして、花火が親しまれています。花火は、大きく分けて2種類あり、専門の職人が打ち上げる「専門花火」と気軽に楽しめる「おもちゃ花火」があります。技術の進歩とともに、炎の色や吹き出し方など変化に富み、その取扱いも年々多様化しています。しかし、気軽に楽しめる「おもちゃ花火」でも原料は火薬であり危険が伴います。毎年、誤った取扱い方法によって火災が発生しています。おもちゃ花火は小型ですが、火薬類取締法等の法令によって、「おもちゃ」として取り扱える火薬の種類・量などが定められています。

花火による火災をなくすために、種類や火薬量に応じて作られた「使用上の注意」をよく読んで正しく取り扱しましょう。

更に夏祭りなどで打ち上げる専門花火での火災も過去には発生しています。多くの観客がいるようなイベントなどで火災が発生した場合、大きな災害につながる可能性があり、さらなる注意が必要です。

平成28年中の東京消防庁管内の花火による火災は8件で、平成27年から大幅に減少しています。（表1参照）。

時間別の火災発生状況では、花火の特性上、夕方や夜間帯に多く発生しています。特に、19時から23時にかけて多く発生しています（表2参照）。

最近5年間の月別の火災発生状況では、5月頃から増加し、8月にピークを迎えています（図1参照）。

最近5年間の花火火災93件の出火箇所をみると、河川敷が33件（35.5%）、敷地内が14件（15.1%）、公園が11件（11.8%）などとなっています。（表3参照）。

表1 過去5年間の花火による火災の発生状況

| 年 別 | 火 災 件 数 | | | | | | | 損 害 状 況 | | |
|--------|---------|--------|-------------|--------|--------|--------|-------------|--|-------------------------|-------------|
| | 合 計 | 建 物 | | | 船 舶 | 林 野 | そ の 他 | 焼 損 表 面 積 (m ²) | 損 害 額 (千円) | 負 傷 者 |
| | | 小 計 | 部 分 焼 | ぼ や | | | | | | |
| 24年 | 26(1) | 2 | - | 2 | - | 1 | 23(1) | - | 80 | - |
| 25年 | 21(2) | - | - | - | 1 | - | 20(2) | - | 3 | 4 |
| 26年 | 25(1) | 2 | - | 2 | - | - | 23(1) | - | 48 | 4 |
| 27年 | 13 | 5 | 4 | 1 | - | - | 8 | 39 | 562 | 1 |
| 28年 | 8 | 2 | - | 2 | - | - | 6 | - | 2 | - |

※建物全焼火災、建物半焼火災、焼損床面積、死者は発生していません。

※（ ）は専門花火の件数を内数で表示しています。

表2 時間別の火災発生状況

| 時間別 | 合計 | 0~6時 | 7~10時 | 11~14時 | 15~18時 | 19~23時 |
|--------|----|------|-------|--------|--------|--------|
| 平成28年中 | 8 | - | - | 1 | 3 | 4 |
| 5年間累計 | 91 | 6 | - | 8 | 22 | 55 |

※5年間累計のうち出火時分不明の2件を除く。

図1 花火による火災の月別発生状況



表3 出火箇所別の発生状況

| 出火箇所別 | 合計 | 河川敷 | 敷地内 | 公園 | 空地 | 道路 | その他 |
|-------|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|
| | 93件 | 33件 | 14件 | 11件 | 6件 | 5件 | 24件 |

花火による火災を防ぐ10のポイント

- ① 花火に書いてある注意事項をよく読んで必ず守りましょう。
- ② 花火を人や家に向けたり、燃えやすい物のある場所で使用しないようにしましょう。
- ③ 風の強いときは、花火で遊ばないようにしましょう。
- ④ 必ず水の入ったバケツを用意しましょう。
- ⑤ 遊び終わった花火は、必ずバケツの水につけて、残り火を完全に消しましょう。
- ⑥ 子供達だけでなく、大人と一緒に遊びましょう。
- ⑦ 一度にたくさんの花火に火をつけないようにしましょう。
- ⑧ 正しい位置に、正しい方法で点火しましょう。
- ⑨ 吹出し、打上げ等の筒もの花火は、途中で火が消えても筒をのぞいてはいけません。
- ⑩ 花火をほぐして遊ぶことは、絶対にしないようにしましょう。

2 花火による火災事例

事例1 おもちゃ花火を不適切に使用したため出火した火災（平成28年10月）

| | | | |
|------|--------------------------|------|-----|
| 出火時分 | 19時頃 | 出火場所 | 河川敷 |
| 被害状況 | 枯草 400 m ² 焼損 | | |

出火原因は、未成年者4人が噴射型の花火や打ち上げ型の花火を河川敷の土手に向けて投げたり打ち込んで遊んでいた際に枯草に着火し出火したものです。

未成年者のうち1人が枯草に着火したことに気がつき、水をかけるなどして初期消火を行いました。消火することができませんでした。

火災を発見後、通行人が携帯電話から119番通報しました。

教訓等

この火災では、おもちゃ花火を土手に向けて投げたり打ち込んで使用するなど不適切に扱ったため火災が発生しています。

今回の火災ではけが人は発生しませんでした。遊んでいる本人のみならず、付近を通りかかった通行人に対してもけがに繋がる危険がありました。

花火は正しい方法で使用し、水の入ったバケツを用意するなど消火の準備を確実に行うことが大切です。



枯草の焼損状況



花火の使用状況

事例2 専門花火の火の粉が立木に着火し出火した火災（平成26年7月）

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 出火時分 | 19時頃 | 出火場所 | 小学校敷地内 |
| 被害状況 | 立木若干焼損 | | |

出火原因は、小学校校庭で行われていた夏祭りで使用されていた専門花火（ナイアガラ花火）の火の粉が校庭内に植えられていた立木に着火し出火したものです。

「ナイアガラ花火」とは速火線（導火線）で連結した^{えんかん}焰管（火薬を詰めた管）を一系列に吊るし、点火すると焰管から火の粉が一斉に流れ落ちる形式の花火です。今回は小学校の校舎の外壁に速火線を渡らせて使用していました。

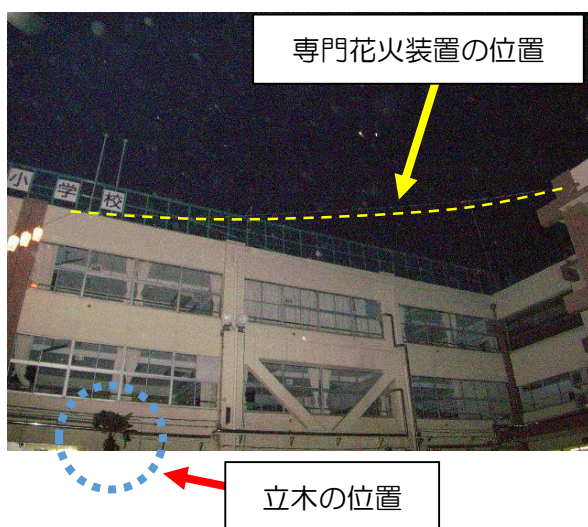
立木は焰管の直下ではありませんでしたが、風が吹いたことにより火の粉が周囲に舞い散ったと思われます。

防火対策として事前に専門花火を使用する箇所周辺に散水をしていましたが、効果はありませんでした。

教訓等

花火は思わぬ方向へ飛ぶことがあり、状況によっては延焼拡大する危険性があります。今回は事前に散水を講じていましたが、散水を行ったのは花火が開始される3時間以上前であり、有効な防火措置とは言えませんでした。

専門花火は夏祭りなどの催しもので行われることが多く、延焼拡大した場合、多数の傷者等が発生する恐れがあります。火の粉が散るような花火や専門花火を使用する場合は場所をよく検討し、万一のことを考えて消火の準備をするなど事前の対策をし、風が吹いている場合などは中止を決断することも大切です。



専門花火の設営状況と立木の位置



専門花火点火直後の状況
（ナイアガラ花火）